

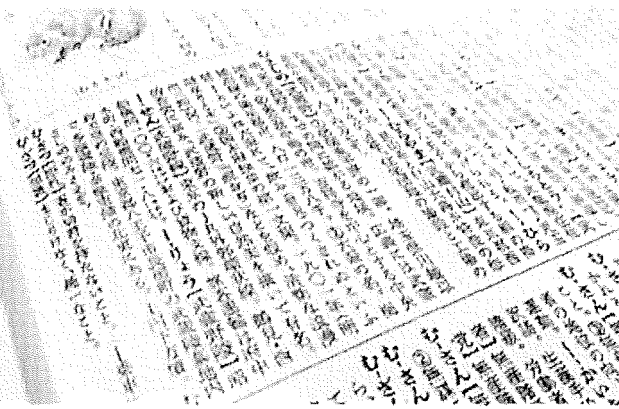
律令で決まった「武蔵」

文人の 武蔵野

「武蔵野」は、辞書などで明確に定義することが難しい地名であり、しばしば「武蔵国」と結びつけられ説明されてきました。「武蔵国」の成立当時、日本語は、意味をともなう音声言語に文字言語（漢字）を擦り合わせてことが形成されていく過程にありました。文字といえは漢字であり、カタカナもひらがなもありませんでした。

地名の起こりを想像すると、ある土地について何かおしゃべりしたいと思ったとき、人はその土地に名前を付けて呼ぼうとするのではない

「武蔵野」とは ⑥



でしょうか。しつこく呼ぶ方が生まれると、その呼び方は共有され受け継がれていきます。

そうした共同の営みから何

「広辞苑」の「武蔵野」の項。様々な定義が紹介されている。

らかの呼称が発生したと考えられます。通称や愛称が生まれ、それを地名として紙に記録する必要が生じたとき、私たちの祖先は、口の端にのぼる「音」に漢字を当てて記しました。それがいわゆる万葉仮名です。

万葉集の歌の中には、「武蔵野」と「无射志野」がともに詠まれています。万葉集は「武蔵国」成立以後に編纂されていますが、収録されているすべての歌が「武蔵国」成立以後のものというわけではありません。文字を介さない声の文化が先にあり、声の文化に文字の文化があとから参入し混交しながら次の段階に進んでいったのでしよう。万葉集における「武蔵野」と「无射志野」の併存はその過程を示しているのだと思います。

律令制に基づいて「クニ」がつくられたとき、国名になる前の「ムサシ」あるいは「ムザシ」は、「无邪志」「胸刺」

「身刺」などと割と自由に表記されていた。しかし、令により国の名を漢字2字で記す必要が生じ、「ムサシ（ムザシ）」という音には「武蔵」と決まりました。

武蔵は「ムサウ」とは読めても「ムサシ」とは読めません。例えば「イズミノクニ」をつくるときに「泉国」では漢字が不足なので「和」を頭につけて「和泉国」にしたように、「武」も「蔵」もともに「好字」として選ばれたのでしよう。

現代を生きる私たちにとっても、「武」と「蔵」は「好字」でしようか？

（武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍）

＊

過去の連載は、読売新聞オンラインでお読みいただけます。スマートフォンはQRコードから。